

電話相談における青少年の性に関する問題

松本 敬子*・徳永由紀子**・阿南澄香**・東田美穂**
新本律子**・兵藤美樹**・竹尾洋子**

Sexual Problems of the Teenager in Telephone Counseling Service

Keiko MATSUMOTO*・Yukiko TOKUNAGA**・Sumika ANAN**・Miho HIGASHIDA**
Ritsuko SHINMOTO**・Miki HYODO**・Yoko TAKEO**

(Received October 1, 1993)

We arranged all records of telephone counseling service in a year, took calls about sex of teenager (under twenty years old) out of them and divided them.

We compared twelve items which we have divided with those of adults (over twenty years old), and examined them. Sexual problems of the teenager are their questions about the changes of mind and body, and their troubles in process of forming their identities. Ages of people who have a tendency to play sex are falling.

We think the tendency is influenced by recent information society. And we are anxious that they leave the difference of an individual in development out of consideration. It is characteristic that the number of calls by boys is much larger.

はじめに

近年電話は、ますます身近なものとなり、特に青少年の電話の使用度、会話時間が話題になることが多い。

こうした社会情勢の中で電話相談は、原則として「匿名」であり、「顔を見せなくて良い」という利点があり、訓練された相談員は「傾聴」「受容」の態度で相談を受ける。どのような相談でも受け入れられ、プライバシーに関することが漏れる不安がない。

特に性に関する疑問や悩みは、性情報が過剰にある現代社会であるにもかかわらず、過剰であるからこそ増し、個人的な問題の解決は見だし難いところであろう。

学校においても近来、性教育は進歩をみせてはいるが、個別的問題や、また発達段階の異なるすべての児童・生徒に必要な Needs にあった情報が行き届くとは限らない。

高校などでは、性の相談ばかりでなく、これら個別の面を考慮し、電話相談の存在を知らせている学校もあると聞く。

そこで生活に密着した言葉で語られる青少年の性

の一側面が把握できたらと考え、熊本市精神衛生事業の関連機関「熊本こころの電話」の年間通話の全記録を整理し、検討する。

方 法

1991年度「熊本こころの電話」の年間の全通話記録13,655件中、19歳以下の相談総数は1,302件であり、22項目に分類した。本研究では、そのうち、「性に関連する相談」11項目と「異性との関係の相談」を加えて12項目について分析する(表1)。とともに成人の性の相談2,110件、異性との関係の相談582件との関連についても、事例分析を行うこととする。

結果と考察

1. 青少年の相談の概要

全年齢の相談、13,600件(性別不明を除く)中、性に関する相談は、男性6,992件(44%)、女性6,608件(14%)である。

19歳以下の相談1,302件中、性に関する相談総数は、933件であり、性別をみると男子からの相談(823人、88%)が、女子からの相談(110人、12%)よりも圧倒的に多いことが注目される。

相談内容別にみると、男子では自慰、二次性徴、外性器に関する相談のほか、いたずらも多い。女子では、主に精神面の男女関係が大部分であり、二次

* 養護教育

** 1992年養護教育学生

表1 19歳以下の性の相談

分類項目	分 類 基 準
自 慰	方法, 回数, 時間に関する事
二次性徴	二次性徴に伴う身体の変化 (月経, 精通, 陰毛, おりもの) 性器の機能 二次性徴に伴う心理的变化, およびその時期特有の心理状態
外 性 器	大きさ, 形, 包茎に関する事
近親相姦	いとこを含む血縁関係にある者との性行為
性ライフ	性行動
性 倒 錯	性対象の異常 性目標の異常
妊 娠	避妊も含む
性 被 害	精神的及び身体的に性的苦痛を受けたもの
性 病	エイズも含む
性の逸脱	性行為の背景に崩壊の兆しが見られるもの 寂しさを紛らす為だけの不本意な性行為, 売春
いたずら	テレホンセックスを含む
男女関係	恋愛問題, 異性との交際

表2 19歳以下の性の相談結果

	男 n=933		女 n=110	
	人数	%	人数	%
自 慰	308	33.4	0	0
二 次 性 徴	174	18.6	14	12.7
外 性 器	117	12.6	4	3.7
近 親 相 姦	50	5.4	2	1.8
性 ラ イ フ	37	4.0	2	1.8
性 倒 錯	31	3.3	0	0
妊 娠	1	0.1	6	5.5
性 被 害	6	0.6	0	0
性 病	1	0.1	2	1.8
性の逸脱	1	0.1	1	0.9
いたずら	108	11.6	0	0
男女関係	99	10.6	79	71.8

性徴, 妊娠, 外性器に関するものが続く(表2)。女子の相談の全項目をみても家族関係など, 人間関係の悩みが多い。性の相談に関しては, 4, 5, 6月が他の月よりやや多いが, 月別の変動は認められない。

20歳以上の成人の性に関する通話では, 2,692件, 男性1,840件(68.4%), 女性852件(31.6%)女性よりも男性に多いが, 青少年ほどの差は認められない。相談内容についてみると男性の性に関する相談のうち, 性倒錯, 男女関係, テレホンセックスの3項目がそれぞれ15%を越えているのに対して, 女性では, 夫婦関係および, 男女関係の2項目に集中化する傾向がありそれぞれ30%を越える。婚外交渉(13.8%)がこれに次ぐ(表3)。成人において, 5月, 10月が僅かに多いが月別の変動は少ない。

青少年の相談は, 成人と比して思春期の身体的変化に伴う身体イメージ変化や, アイデンティティの形成過程に関する問題が多い。特に男子にその傾向が強く認められる。

Boehmら(1991)は, "The Teenager is confronted with physical changes associated with Puberty as well as changes in body image, and the crises these create Adolescence is also the time when the individual defines his or her identity."と述べ, 思

表3 成人の性の相談

	男 n=1,840		女 n=852	
	人数	%	人数	%
自慰	217	11.8	3	0.4
外性器	87	4.7	1	0.1
近親相姦	53	2.6	5	0.6
性ライフ	127	6.9	25	2.9
性倒錯	311	16.9	26	3.0
妊娠	24	1.3	29	3.4
性被害	31	1.7	19	2.2
性病	11	0.6	7	0.8
性欲	29	1.6	10	1.2
夫婦関係	71	3.9	308	36.2
婚外関係	107	5.8	118	13.8
性差別	0	0	3	0.4
いたずら	172	9.4	16	1.9
テレホンセックス	281	15.4	5	0.6
その他	9	0.2	5	0.6
男女関係	310	16.9	272	31.9

春期の若者に対する情報の必要性をあげている。しかしこの時期の若者が得る情報は同年齢の仲間から得ることが多い。従って経験の乏しさからくる誤った情報を信じ込んで悩みを深くしてしまうこともあると指摘している。「熊本こころの電話」は、医療、教育関係に従事している専門家をはじめ、定年退職者や主婦等の人生経験の豊富な人材が、1年間の訓練を経てこれに当たっている。従って若者同士の情報交換から生じやすい誤った判断を修正することも可能である。青少年が、安心して通話することによって、自らの悩みを整理し、まとめていくことができると思われる。青少年のアイデンティティ確立の一助ともなるかも知れない。

2. 青少年の相談事例

(1) 自慰に関して

総件数308件を数えるが、青少年の場合、全員男子で占められる。平均年齢16歳であり、中学生・高校生が殆どである(平均通話時間10.2分)。この項目に

関しては年間相談は4月が圧倒的に多く、曜日別では金曜、時間帯では16時から18時に多い。自慰に関しての内容を更に分類すると、1)回数に関する相談130件、2)方法に関する相談85件、3)時間に関する相談8件、4)罪悪感18件、5)その他相談67件となっている。

1) 回数に関する相談事例

中学生、14歳、(男子)：「オナニーの回数が増えたが体に悪いのか」

2) 方法に関する相談事例

常勤者、19歳、(男子)：「好きな女性があり、その人のことを思うとオナニーがしたくなるが…果たしてこれで良いのか」

3) 時間に関する相談事例

中学生、14歳、(男子)：「オナニーに30分の時間(射精まで)を要するが遅いと思う」

4) 罪悪感をおぼえる相談事例

高校生、17歳、(男子)「オナニーの後、何か悪いことをしたようですっきりしない」

5) その他

この中には、「自慰とは何か」、「自慰に関する感想」を述べる等の理論派や、性器の痛みを訴えるものなど多様であるが、中に身障者(18歳、男子)の性の問題(母の手を借りるが…果たしてこれで良いのか)も含まれている。

「正常である否か」「体に悪いのか」「知らないで友人からわらわれた」「友人から聞く方法が解らない」など自身の身体の変化を体験する13歳からこれら内容が中心である。

自慰は、性的発達に伴う正常な反応であり、性衝動をコントロールし、統合することを学ぶものである。

村瀬(1990)は、「自慰は自分の体との対話であり、性欲や性の感覚との付き合い」としてとらえることをすすめている。

自慰に関して雑誌等の影響もあり、抑圧的問題は減少している。しかし心情面、生理面に個人差があることがここでも明らかであるが、画一的にとらえようとする最近の青少年の傾向が悩みとなって表出されているようにも思える。

青少年の自慰に関しては、試行錯誤の時期であるところから成人と異なり、あらゆる側面があり、比率の上でも成人の場合より高い。

(2) 二次性徴に関して

この項目に関しては189件の相談があったが、男子が92%を占めている。平均年齢、男子17.6歳、女子

13.5歳、(平均通話時間11.8分)、二次性徴についての相談は次の4項目に分類できる。1) 二次性徴に伴う身体の変化に関するもの38件、2) 二次性徴に伴う心理的变化に関するもの125件、3) 身体の変化、心理的变化に伴う性知識の要求15件、4) 身体の変化、心理的变化に伴う環境条件に関するもの11件である。

- 1) 二次性徴に伴う身体の変化に関する相談事例
小学生、12歳、(男子)：「朝起きたらパンツが濡れていた。病気でしょうか。親に内緒でパンツを着替えた」
- 2) 二次性徴に伴う心理的变化に関する相談事例
中学生、13歳、(男子)：「体がモヤモヤした感じになる。自分ではどうして良いか分からない。イライラする」
- 3) 身体の変化、心理的变化に伴う性知識の要求
中学生、14歳、(男子)：「女の人の体に興味が出て本を買って見たのですが、知らない言葉がいっぱい出て来た。友達は、知っている様子なのでびっくりしている」
- 4) 身体の変化、心理的变化に伴う環境条件に関する相談事例

高校生、17歳、(男子)：「満員バスに毎朝乗るが、女性に触れる機会が多く、すぐ勃起するので困っている。恥ずかしいので朝から処理していくがどうしても良くならない」

二次性徴に関する1) 事例では男女とも修学旅行時の入浴等で自分の体の変化を知られる不安を訴えているものも多い。2) 事例に関しては13歳から15歳の年齢層では性的欲求の高まりを、体や頭や性器がモヤモヤするというような抽象的表現で訴え、16歳から19歳では、女先生等が「気になる」というような身近な異性を対象にした具体的な訴えが多い。つまり、この相談は年齢差が比較的是っきり出ている。12歳以下では、身体的変化に戸惑い、13歳から15歳では欲求の高まりを漠然と意識し、16歳から17歳では欲求が異性によって高まることを意識した相談である。3)、4) 事例では、このような心身の変化期にある青少年を取り巻く環境や情報に関する青少年の反応と思えるものが多い。家庭の性環境や、見せられたアダルトビデオのショックを訴えるケースもあり、タンポン、コンドーム、夢精等、断片的知識についての要求も目立ち、中には興味本位のものもある。発達過程にある青少年の正しいセクシュアリティの確立を阻むと思われる周囲の状況があることを物語っているといえよう。

(3) 性倒錯

この項目に関して31件の相談があったが、このすべてが、男子からの相談であり、平均年齢は17.8歳、(平均通話時間12.9分)、相談内容は、1) 女性下着への興味、2) 女性下着の窃盗行為、3) 女性下着を着けての自慰、4) 窃視症、5) 露出症、6) 幼児への興味、7) 痴漢行為、8) 性倒錯の悩みの相談からセクステレホンに移行するケースに大別される。

- 1)、2) 女性下着へ興味を持ち、その窃盗行為に関する相談事例

高校生、年齢不詳、(男子)：「高校生になって自転車通学するようになり、朝、下着を干している女性を見て興味をもち、帰途、思わず盗んだ。以後一度見つかり謝って済み、2度としないと思ったが止められず、もう2年続く。下着もたまっているが、家人は誰も気づいていない」

- 4) 窃視症に関する相談事例

常勤、19歳、(男子)：「アパート独り暮らし、雑誌、ビデオに刺激を感じなくなり、2年前から女性用トイレを覗き見するのに快感を感じる。最近は週に5日、なかなか止められない」

- 6) 幼児への興味相談事例

中学生、15歳、(男子)：「小さい女の子が公園で遊んでいるのを見ると興奮し、急いで家に帰り、オナニーする。以前、小4の従妹とじゃれあってそんな気持ちになったのがきっかけ、いたずらは悪い事だと分かっているのではない」

他に露出癖など明らかな性目標の異常の例はあるが、青少年の倒錯の場合、これら事例すべてが、果たして異常といえるかと思えてくる。マスコミの影響、好奇心のエスカーレトともとれ、また、止めたいと悩んでいるものが多い。しかし、17歳少年の女子高生対象の隠し撮りや、女性下着窃盗等は、性犯罪であり、この繰り返し、成人の例にある明らかな性目標異常や質の異常へと移行することも考えられる。

成人例には服装倒錯、テレホンクラブによる刺激を習癖とする22歳女子の例などがある。

- (4) いたずら・テレホンセックス

106件の相談はすべて男子からのものであり、平均年齢男子17.4歳、(平均通話時間9.4分)、5月、11月に多く、週のうち日曜、月曜が多い。相談内容においては、1) いたずら、2) いたずらからテレホンセックスへの移行が多く、両者それぞれ半数を占

めている。

1) いたずら事例

会社員, 19歳, (男子): 「母が泥棒に犯された」

2) テレホンセックス事例

学生, 19歳, (男子): 「何色のパンティはいますか。僕のオナニーに付き合ってください」

最近, 性情報を得たり, 性目的の相手を求めるテレホンクラブ, ダイアルQ等の利用が高まっていると聞く。その延長ないしは同感覚で性のはけ口とする例が多く, それも低年齢化している。相談員のパンティの色を聞く小学生グループのいたずらもある。常習者による作話が多く, さまざまなバリエーションの作話で相談員の反応を楽しむ傾向もある。青少年は, 男子のみであるが, 成人ではこの項目は倍率に増え, 女性も加わる。例としてテレホンクラブの応酬が病み付きになっていると言う女性の訴えもある。

孤独や, 性を安易にプレーする現代社会の特徴が最も感じられる項目の一つである。

(5) 近親相姦

この項目に関して50件の相談があったが, 男子が96%を占めている。平均年齢男子16.0歳, 女子18.0歳, (平均通話時間12.2分), 男子の場合, 対象者として, 1) 母33件, 2) 妹9件, 3) 従姉妹3件, 4) 叔母2件, 5) 姉1件, 女子の場合の対象者として, 6) 父2件, このうち, 7) 障害者が6件含まれる。疑わしいのは排除してあるが, なお母との関係は多すぎ, この中に作話や, その願望が含まれ, 信憑性を欠くものがある。この項目の全体に共通するのは, 家族が少ない上, 異性の近親者と二人になる機会が多く, 被害者的役割を負う方が, 回を重ねた後, 悩んだ末, 電話をするケースが多い。

1) 母との事例

中学生, 14歳, (男子): 「父が交通事故で死亡, 母と二人暮らし, 1週間前, 母から一緒に入浴中, オナニーの仕方を教えられ, 交渉を持つ。いいのでしょうか」

2) 妹との事例

高校生, 17歳, (男子): 「妹, 中学3年, 他の男性にやりたくない。兄妹でこんな関係になっているのは異常だと分かっているけれど止められない」

6) 父との事例

高校生, 18歳, (女子): 「父45歳, 母1年前入院, 父と二人暮らし, 父の性処理を見て同情から交渉をもつ。既にテレホンクラブを通じて性

体験は多い方であるが, この関係は止めたい。しかし父はこのままで良いという」

7) 障害者事例

高校生, 17歳, (男子): 「妹14歳, 3歳時の事故で言葉がなく, 足が不自由, 施設から, 日祭日帰宅, 妹が下半身裸でトイレから出て来た。母の留守と妹が喋れないのをいいことに犯すようなことをしてしまった」

成人の場合は, 平均, 年齢, 男性27.5歳, 女性30.5歳, 近親相姦は, 諸外国と同様, 日本でも「父一娘」の関係が多く, 「母一息子」の関係は珍しいと言われており, 母の過保護や母子癒着の延長としてこの関係には結びつかないとも言われる。若い男性のいくつものこれらの通話は, 作話として排除し難い記録からのものである(相談員が作話かとするものは当初から除く)。しかしこのような話を作ること自体に問題である。

記録から把握できた事例として, 父娘相姦という同じ内容を数週間に互り, 男女交互に訴える明らかな性プレイの一つの形態と思われるものも見られた。

成人の場合は, 男性の相談者の対象として姉妹が多くなるが, 家族の在り方や, 家庭内においても男女の互いの性の理解や, マナーが問われる。

この項目は, 性プレイが混在しているが, 「母一息子」の関係は以前から匿名相談が多いと言われており, 電話相談に出てくる可能性は高い。他に障害者の事例は, 障害者の性についての問題提起としてとらえたい。

(6) 性ライフ

比較的一般的な青少年の性行動と思われるものを集めると39件あった。男子が95%を占める。平均年齢15.7歳, 女子17.5歳, (平均通話時間9.6分), 内容は, 1) 自分の年齢, 立場での性行為の是非, 2) 性経験についての戸惑いに区分できる。

1) 性行為の是非の事例

中学生, 13歳, (男子): 「最近, ガールフレンドが出来, 2人でよく部屋にいる機会が多くなった。親たちも知っている。女の子はセックスしてもいいというのが, 本当に良いものか」

2) 性経験についての戸惑い事例

高校生, 17歳, (男子): 「交際4ヶ月の1つ年下の女の子が家人の留守に遊びに来る。セックスに関する本を読んだりしているが自信がないし, 友達にも聞けない。スキンも準備している」
高校生, 18歳, (男子): 「アルバイトをしてはソープランドに通う。止められない」

成人の相談事例は、平均年齢男性29歳、女性28歳、男性がその84%で、うち未婚者90%、男性の方が「女性が不満を感じているのではないか」という不安感が極めて多いのに反し、女性側には不満を訴えるケースは少ない。男性の場合、恋愛＝セックスという認識が多く、青少年もその期待感が強い。しかし青少年の場合は、自らの性の確立しようとする過程の疑問や不安も含まれている。

(7) 男女関係

思春期の心身の変化との関わりが深いところからこの項目を取り上げた。178件のうち、男子97件、55%、女子79件、45%、女子ではこの項目が女子の全相談の71.8%を占める。平均年齢男子19.6歳、女子13.2歳、(平均通話時間16.5分)、この相談内容は、男子は、1) 性関係についての悩み38件、2) 片思い30件、3) 失恋4件、4) 年上の女性からの誘惑3件、5) 交際のかたち、他22件、女子は、6) 片思い27件、7) 彼の気持ちが分からない9件、8) 失恋5件、9) 彼が浮気をしているようだ4件、10) 心変わりその他34件である。

1) 性関係についての悩み事例

高校生、18歳、(男子)：「近所の赤ちゃんを連れて通る28歳の女性に好意を持ち、遊びに行くようになり、性行為をお願いした。最初は、彼女は戸惑っていたが、半年続き、頭ではもう止めようと思いながら夏休みは、毎日出掛ける。両親は共稼ぎでずっと一人です」

2), 6) 片思い事例

中学生、14歳、(男子)：「女先生が好きになった。みんな好きでワイワイ言っているけど自分は黙っている方だから先生は知らないだろう。先生の胸とか体に触りたいといつもそのことが頭から消えない。夜、電話しても留守ばかりで彼がいるようだ」

小学生、12歳、(女子)：「二人の男の子が好きになった。他校の6年生とは水泳大会で知り合った。5年生は今、同じクラブ、6年生とは近く同じ中学になるが、5年生とは別れねばならない。どちらかというとなら6年生の方が好き」

3), 8) 失恋

中学生、15歳、(女子)：「どうしたら死ぬますか。彼に、他に好きな人が居て、もう俺に心配かけるなど言われた。面倒ばかりかけている。友人に自殺するといういろいろな言ってくれるけど気持ちは変わらない。どんな薬を飲んだら楽に死ぬますか」

4) 年上の女性からの誘惑

中学生、15歳、(男子)：「母と2人暮らしで、母が夜の仕事なので夕食を隣家で食べるが、隣家もご主人が他県に出ていて小学生との母と子の家庭である。その奥さんから誘われ、自分も好きだが、いけない事だと思い、拒否して家に戻ると家に追ってくる」

5), 10) 交際のかたち、その他事例

専門学校生、19歳、(女子)：「高3の時から交際してきた彼が最近冷たい。お金はないし、車はないし、デートはいつも公園か映画。彼は、つきあって居る意味がないと気乗りしないようです。自分は好きだけどもう「冷めた」と言ってくれた方がまだすっきりする」

他にも、(友人の恋人との三角関係)、(交際を求められて困っている)、(彼女とよりを戻したい)、(別れたい)など、さまざまな事例がある。

この項目の相談は成人の場合、数の上では男女の大差は無いが、男性は他項目に比べ、女性より率は低い。年齢も男性は平均年齢28.1歳であるが、女性は、40.9歳と幅広い。平均通話時間も女性は男女関係相談36分で、婚外関係相談の42分、夫婦関係相談39.8分に次ぐ。これら男女間の問題については全項目中、女性は殊に長い。この長い相談記録を見ると「問題の経緯」そして「悩む」ことを語り楽しむ場合もあるように思える。

離婚の際の女性の経済的、社会的問題や性差別、妊娠、性被害と変わらない弱い立場の女性の悩みも多い。反面、女性の結婚への疑問や、女性の性意識、性行動の変化も見られる。

青少年の場合も、片思い、失恋等、以前と変わらない現状もあるが、各ケースに、女子の性意識の変化があり、男子の安易な性行動がある。

事例から現代の男女の在り方や、男女交際の価値観に問題があり、豊かではないと感じる。女子の異性への接近行動が積極化していること、男子の性行動の低年齢化していることなどこの項でも明らかである。

(7) その他…として少数項目をまとめる

複数の異性を対象にした(売春)、(レイプに近い逸脱した男女の性行動)、(性病)や、(妊娠)に関する問題も見られたが、青少年の性行動が積極化している割には、この面の相談はきわめて少なく、性病や妊娠の不安はどこで解決しているのであろう。

3. 全体考察

以上、項目化した具体的事例に沿って見て来たが、全体的にまとめると「親友がいない」「淋しい」という通話記録も多く、相談相手と言うより話相手を求めている傾向がある。

Boehmらによるアメリカ、オハイオ州、トレドの教会の青年部が設立した「10代の10代による電話相談」機関は、注目に値し、またその分析も示唆に富むものであった。

この相談の95%が、友人関係、家族関係のこと、そしてただ「ちょっと話相手が欲しかった」というありふれたものであったという。「こころの電話」の場合も性以外は、友人、家族関係が多く、特に女子においては、男女関係を含めて大部分が人間関係に関する「ちょっとした話題」で占められている。

また、このアメリカのティーンラインが10代の望まない妊娠、性的な伝染病、薬の乱用の相談が予想より少ない事を指摘し、「10代の関心事がそこにあるのか」、このような重大な結果を「ありのまま真剣にとらえ、考える事をしないのか」と疑問を投げかけている。われわれの「熊本こころの電話」の分析においても前述したように妊娠、性病の問題に同様なことを感じる。

またこのティーンラインでは、少女が68%占め、ニュージーランドの研究データより男子が少ないとし、アメリカの男の子が助けを求めることを恥辱とする風潮を指摘している。

これらの例に比べ、「熊本こころの電話」の場合、男子の通話がきわめて数値的に多いこと、外性器や、自慰に関して平均値をしきりに気にしたり、男女関係においても主体性に乏しい行動例が目立ち、これら事例内容についても注目すべきものがある。日本の青少年は、その性意識、行動においても甘えの部分が大きいように思える。

次いで、学校の性教育は近来、進歩を見ているが、思ったより初歩的な疑問が多く、集団での情報がは必ずしも個人のその時の要求水準と一致しない事を示している。

また、若者向けの雑誌、そしてビデオ等のマスメディアの影響がどの項目にも見られ、不安や悩みを増幅している。これらは前述の10代の10代による電話相談（訓練を経た10代の相談員がBOPsと呼ばれる成人の識者に「困難事例」時には支援を得ながら活動）のように同世代であればより共感的に対応し、もっと「こころ」をいやす例があるかも知れない。

この報告に「究極的には青年期の精神的外傷を減

らすこと」とあるように青少年期の特に、性の相談においては年長の相談員もこの目標で臨むべきであろう。

要 約

電話相談の年間通話の全記録を整理し、青少年(19歳以下)の性についての相談を取り出し分類した。

分類した12項目を、成人(20歳以上)の性の相談とも比較し、検討した。

青少年の性の問題は、心身の変化に関する疑問であり、アイデンティティの確立過程の悩みである。性をプレイ化する傾向は低年齢化しており、その傾向は近来の情報社会の影響と思われる。また、個人差を考えないところに不安がある。男子の相談が極めて多いのも特徴的である。

引用文献

- 1) Boehm Kathryn, Chessare John B., Valko Tom R. and Sager M. f Steven (1991): Teen Line: A Descriptive Analysis of a Peer Telephone Listening Service *Add-lescence*, 26, 643-645
- 2) 村瀬幸治: さわやか性教育, 新日本出版, 1990

参考文献

- 1) 白鳥 哲: 「熊本こころの電話」事業報告書第9号, 社団法人熊本県精神保健委員会, 1992
- 2) 江口篤寿: 性の指導総合事典, ぎょうせい, 1992
- 3) 深谷知子: 子どもをとりまく文化, 児童心理, 金子書房, 16-22, 1992
- 4) H. アイゼンク, 岩脇 浪 (訳): 性・暴力・メディア, 新曜社, 1985
- 5) 岩淵成子: 障害をもつ人の性を考える, 生徒指導 増刊, 学事出版, 85-88, 1990
- 6) 川野美代子: ティーンズボディQ&A, 東山書房, 1989
- 7) 金子真知子: 同性愛と私, 生徒指導 増刊, 学事出版, 35-39, 1990
- 8) 熊本悦明: 異性愛, 同性愛, 自己愛の連続性, 青年心理 73号, 金子書房, 93-95, 1988
- 9) 黒川義利: 性相談ABC, 東山書房, 1989
- 10) 宮脇美和: 自慰のとらえ方いろいろ, 生徒指導 増刊, 学事出版, 1990
- 11) 村瀬幸治: 明日への性教育, 青木書店, 1987
- 12) 長内宏美: ヤングテレホンから見た親の心 子の心, 生徒指導, 学事出版, 34-55, 1991
- 13) 永松真理子: 健康な子供, 日本生活医学研究所, 15-17, 1989
- 14) 奈良林祥: マザーコンプレックス, 青年心理 74号, 金子書房, 105-169, 1989
- 15) 大山昭男: ほくらの性の悩み, 文理書院, 1979

電話相談の中の性

- 16) 琉球新聞：10代の性意識，琉球新聞社，1991.2.4. 朝刊
17) 佐橋憲次：人間と性の教育1～5巻，あゆみ出版，1988
18) 沢田慶輔：性教育をめぐる問題事例，学陽書房，1977
19) 田中良：性教育にかかわる事は生徒指導の近道，生徒指導，48-53，1992
20) 田原 孝：電話で受ける少年少女の性，学事出版，1992
21) 安井庸之助：子供のQ&A，神戸新聞出版センター，1984